

中部小学校教育研究会 生活・総合的な学習研究部会

- 1 実施期間** 第1回 平成29年6月7日(水)  
第2回 平成29年7月4日(火)

- 2 実施場所** 琴浦町立赤碕小学校

- 3 講師** 兵庫教育大学 教授 溝邊和成 先生

**4 研修内容**



研究主題 豊かな体験や活動を通して主体的に学ぶ子どもの育成  
～探究的・協働的な活動による学びの創造～

**第1回目 総合的な学習(5年)授業研究会**

身近な課題を設定することにより、児童が課題を自分のこととしてとらえることができる。自分のこととして課題をとらえられたら、主体的に活動に取り組む児童の姿につながると教えていただいた。生活に密着した課題や生活圏内にある課題など高学年だからこそ設定できる多様な課題設定の可能性があることが参考になった。また、情報を整理する場面の活動では、思考ツールを有効に使えるよう活動を仕組むことが大切であると教えていただいた。思考ツールを何のために使うのか、どのように活動に活かすのかを指導者がはっきり持つことでさらに有効になると感じた。さらに児童の思考を整理したり、友だち同士で議論が生まれやすくなるのに思考ツールは有効であると学んだ。この活動の繰り返しは協働的な学習になることも学んだ。

**第2回 生活科(1年)・総合的な学習(3年)授業研究会**

1年の生活科の学習では、学校の中の身近な自然について観察し、観察したことをまとめてオリジナルの歌を作ろうという学習だった。児童が伸び伸び活動できたのは、めあてが明確だったことや児童の五感を表現できる思考ツールの工夫、活動の振りができる写真を掲示するなどの環境設定がよかったことをあげられていた。生活科では、児童に感じたことを自由に発言させながら、板書を通して思考を整理していくという教師の役目も重要であることを教えていただいた。

3年の総合的な学習では、児童の願いを大切にしながらスタートしていることが児童の意欲づけになっていると教えていただいた。しかし、ゴールイメージとして「誰に」「何を」伝えるのかをはっきり児童に捉えさせておかないと意欲の継続が難しいといことも教えていただいた。また、3年生という段階を考えて、板書で思考を整理することも大切であると感じた。赤碕小学校の指導案に「学びどき、学びどこ」というところに手立ての仕方を入れるとより指導に活かせることもご示唆いただいた。

2回の授業研究会を通して、課題設定の大切さ、児童の思考の流れを考えた授業構成、環境設定の大切さを学んだ。学んだことをそれぞれの学校に持ち帰り、実践していきたい。